

1月17日 午後

ホアビン省タンラック県ディックザオ村農家での聞き取り

ディックザオ村の高床式住居を訪問し、農林業への政府やNPO・NGOの援助について聞き取り調査を行った。都市からのアクセスが比較的容易であるという理由からこの村は貧困村には認定されていないが、生活水準はまだそれほど高くはない（2008年の村の平均年収は約5,000,000ドン／人）。

政府による林業支援の一つとして、アカシアやユーカリといった、もともとこの地に生育していなかった植物の導入がある。成長が早く土を良くし、現在70%以上が無事に生育しており、在来植物への影響は今のところ見られない。別の取り組みとして、土地の使用書を発行したことも挙げられる。それまでの森の共同管理では、それぞれが思うように伐採を進め、保全活動を行わなかったために森林破壊が深刻になった。そのため、森林を各世帯に割り振ることで、プラスとマイナスの面を自覚させ森林破壊を食い止めるといった政策がとられた。

農業支援としては、JVCが幼苗一本植え（SRI）とアヒル・魚の水稲同時作を導入した。アヒルに関しては、朝放し夕方回収しなくてはならない。家から遠い水田では行うことが出来ない。しかしこれを行うことで、1・2週間に1回しか見回っていなかった水田を1日2回見回ることになり、よりきちんと田の状態を把握することになり、きめこまやかな世話をする結果になった。

援助・支援というと、新しい種や技術の導入といった面にどうしても目がいってしまう。しかし援助・支援の成功している地域についてよく見てみると、人々の生活習慣や意識に働きかけるような政策が実施されていることが見て取れた。人々が一番求めているものは何なのか、実践可能な方法でそれを行うにはどうしたら良いのか。外側からは分からない努力というものを知ることができた。

（記録：原田ゆかり）